

福祉サービス第三者評価結果報告書

港区長 様

〒 202-0021

所在地 東京都西東京市東伏見3-5-36-101

評価機関名 有限会社 TCP

認証評価機関番号

機構 06 - 166

電話番号 042-452-8021

代表者氏名 鈴木 純平

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	小野瀬 由一	経営	H0305057
	②	加藤 正樹	福祉	H0601051
	③	菊地 圭子	福祉	H0701097
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	暫定保育室			
評価対象事業所名称	港区東麻布保育室			
事業所連絡先	〒	106-0044		
	所在地	東京都港区東麻布2-1-1		
	TEL	03-3584-3811		
事業所代表者氏名	篠原 より子			
契約日	2012 年	8 月	4 日	
利用者調査票配付日(実施日)	2012 年	9 月	28 日	
利用者調査結果報告日	2013 年	1 月	25 日	
自己評価の調査票配付日	2012 年	9 月	28 日	
自己評価結果報告日	2013 年	1 月	25 日	
訪問調査日	2013 年	1 月	29 日	
評価合議日	2013 年	2 月	15 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めて頂く為、評価の全体像や具体例を用いた判りやすい資料を作成し、職員説明会を全ての職員が可能な限り参加できる時間を選定して実施しました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果には、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表によるできるかぎりわかりやすいとりまとめを行いました。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)理念 築き合う(保育の内容) 支え合う(子育ての支援) 広げ合う(地域との協働) 2)保育ビジョン みんなで生き・育ち・助けあい・乗り越える力を育みます。 3)使命 子どもの最善の利益を追求し、家庭・地域も育ち合う環境作りを目指します。 4)子どもの育つ力を支えるために、家庭と共に、行政・地域・事業者が一体となって協働して理念を実現します。 5)一人ひとりの子どもを尊重し、寄り添い、発達状況に合わせて個別の対応を心がけます。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>日常の保育や行事の中に子どもを守る環境作りを常に心がけていく。子どもをめぐる問題は、保護者・地域みんなの課題として受けとめ、子どもの権利を守る実践を地域に広げていく役割を担う。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育士として保護者が時間的・精神的ゆとりを持って子どもと向き合い、子育ての豊かな人間関係の中で、子どもを最も身近で守る存在となる。また、地域の特徴として外国籍の子ども達に寄り添い情報の共有などにも積極的に行動を起こしていく力を付けていく。</p>

調査対象

調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。

調査方法

園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関へ郵送して頂くか、もしくは、園内に設置した回収ボックスに登降園時に投函して頂くようにしました。

利用者総数

132

共通評価項目による調査対象者数

132

共通評価項目による調査の有効回答者数

108

利用者総数に対する回答者割合(%)

81.8

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか」との質問に対して、「大変満足」63.0%、「満足」30.6%、を全て足すと93.6%の回答率となっており、園に対してほとんどの保護者が満足している状況がうかがわれます。個別の項目についても「はい」と回答している結果が多く、満足している状況がうかがえました。特に、「食事・おやつメニューへの配慮」、「子育てについての相談」、「職員の話聞く姿勢」などは、「はい」の回答率が95.4%、96.3%、95.4%と満足度がとても高い結果でした。一方、「第三者委員への相談の周知」で、「はい」の回答が42.6%と全体と比べ低い値となっていました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	103	4	0	1
この項目では、103人が「はい」と答え、全体の95.4%を占め、「どちらともいえない」が3.7%、「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、健康的で新鮮な食事、食事・おやつをととても楽しみにしているなどの声が聞かれ、満足している様子がうかがわれました。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	93	9	4	2
この項目では、93人が「はい」と答え、全体の86.1%を占め、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が3.7%という結果でした。また、自由記入の結果では、毎日外遊びを楽しんでいる、十分に遊んでいるなどの声が聞かれ、満足している様子がうかがわれました。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	98	2	0	8
この項目では、98人が「はい」と答え、全体の90.7%を占め、「どちらともいえない」が1.9%、「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、いつでも対応してくれている、とても助かっているなどの声が聞かれ、柔軟に対応されている様子がうかがわれました。				

4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	102	5	0	1
この項目では、102人が「はい」と答え、全体の94.4%を占め、「どちらともいえない」が4.6%。「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、いつでもすぐに連絡くれる、報告してもらえるなどの声が聞かれ、十分に対応されている様子がうかがわれました。				
5. 安全対策が十分取られていると思うか	87	17	2	2
この項目では、87人が「はい」と答え、全体の80.6%を占め、「どちらともいえない」が15.7%。「いいえ」が1.9%という結果でした。また、自由記入の結果では、問題ない、充分だと思ふなどの声が聞かれる一方で、出入口については、さらなる安全対策を期待する様子もうかがわれました。				
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	94	10	1	3
この項目では、94人が「はい」と答え、全体の87.0%を占め、「どちらともいえない」が9.3%。「いいえ」が0.9%という結果でした。また、自由記入の結果では、考慮してくれているなどの声や土曜開催の行事には満足している様子がうかがわれる一方で、日程や変更などの連絡について、迅速な周知など、さらなる対応を期待する様子もうかがわれました。				
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	104	3	0	1
この項目では、104人が「はい」と答え、全体の96.3%を占め、全設問の中で最も高い値となっており、ほとんどの保護者が満足していることがわかりました。また、「どちらともいえない」が2.8%、「いいえ」が0.0%の回答率となっていました。自由記入の結果では、いつでも時間を取ってくれる、安心して相談できる、十分に意志疎通できるなどの声が聞かれ、信頼関係が結ばれている様子がうかがわれました。				
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	103	3	0	2
この項目では、103人が「はい」と答え、全体の95.4%を占め、「どちらともいえない」が2.8%。「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、親しくしてもらっている、十分なコミュニケーションができているなどの声が聞かれ、満足している様子がうかがわれました。				
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	97	8	0	3
この項目では、97人が「はい」と答え、全体の89.8%を占め、「どちらともいえない」が7.4%。「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、十分に配慮されている、問題が起こったことはないなどの声が聞かれ、十分に守られている様子がうかがわれました。				
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	101	5	0	2
この項目では、101人が「はい」と答え、全体の93.5%を占め、「どちらともいえない」が4.6%。「いいえ」が0.0%という結果でした。また、自由記入の結果では、愛情を持って接してくれる、とても親切でやさしい等の声が聞かれ、大切にされている様子がうかがわれました。				

11. 職員の対応は丁寧か	99	6	1	2
この項目では、99人が「はい」と答え、全体の91.7%を占め、「どちらともいえない」が5.6%。「いいえ」が0.9%という結果でした。また、自由記入の結果では、やさしく素晴らしい、明るく丁寧に対応してくれるなどの声が聞かれ、満足している様子がうかがわれました。				
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	95	7	2	4
この項目では、95人が「はい」と答え、全体の88.0%を占め、「どちらともいえない」が6.5%。「いいえ」が1.9%という結果でした。また、自由記入の結果では、自由に伝えられる、連絡帳などを活用しているなどの声が聞かれました。				
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	88	14	1	5
この項目では、88人が「はい」と答え、全体の81.5%を占め、「どちらともいえない」が13.0%。「いいえ」が0.9%という結果でした。また、自由記入の結果では、要望への取り組みは増々良くなっている、信頼しているなどの声が聞かれ、きちんと対応されている様子がうかがわれました。				
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	46	7	49	6
この項目では、46人が「はい」と答え、全体の42.6%を占め、「どちらともいえない」が6.5%。「いいえ」が45.4%という結果で、「いいえ」の回答率が全設問で最も高い値でした。また、自由記入の結果では、知らなかった、第三者委員にお願いするほどの事案はないなどの声が聞かれました。				
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	29	2	1	0
この項目では、全回答者数が32人となっており、その内、29人が「はい」と答え、回答率が90.6%、「どちらともいえない」が6.3%、「いいえ」が3.1%という結果でした。また、自由記入の結果では、すべての事を説明してくれた、親身に説明されたなどの声が聞かれました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 9/9
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(0000)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(00)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(000)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当

カテゴリー1の講評

保育室理念等は園内掲示等で明示し職員・保護者との共有を図っています。

保育室の理念「①築き合う(仲間との協同)、②支え合う(保護者との協同)、③広げ合う(地域との協同)」や基本方針「生きる力を大切に
する」は玄関、事務室、各クラスに掲示すると共に園のしおり等に掲載し、職員・保護者に明示しています。職員が理解すべき保育士倫理
綱領は携帯サイズにして配布すると共に年度当初の職員会議で確認しています。園のクラス別年間指導計画は入園前面接や保護者会に
おいて説明すると共に保育課程に基づき年間指導計画・月案・週案を策定し、週案は保育室に掲示し、職員・保護者との共有を図っていま
す。

年度事業計画等は団会議等で決定し、経営層は職責実行で組織活動をリードしています。

経営層(園長、副園長、主任、スーパーバイザー)の役割と責任は職員のしおりや役割分担表に明示する共に、年度当初の職員会議にお
いて職員に周知しています。年度事業計画・予算案は職員会議(月1回)・団会議(組合会議・月1回)の討議を経て決定します。運営・経営
上の課題は、主任リーダー会議、乳児・幼児・給食会議、団会議を経て職員会議で意思決定します。経営層は自らの職責に基づき職員の
モチベーション管理を行いつつ、職責実行は職責ノートに記録し組織目標の達成をリードしています。

重要な案件は職員会議等で意思決定しクラス掲示等により保護者へ適時告知しています。

園運営で緊急案件が発生した場合は、緊急職責会議、緊急主任リーダー会議、緊急職員会議を開催検討し、検討結果は朝礼で周知を
図っています。重要な案件については、保護者会アンケート、父母の会アンケート等の意見収集を行い、係り会議、乳児・幼児・給食会議、
主任リーダー会議(月2回)、団会議、職員会議(月1回)を経て意思決定しています。これら会議による重要な意思決定は職員会議で共有
化し、議事録等の閲覧により欠席者も含め周知徹底を図っています。また、保護者に対してはクラス掲示や園だより等により適時告知して
います。

2			カテゴリー2	
2			サブカテゴリー1(2-1)	
経営における社会的責任 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している		○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる		○非該当	
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○非該当	
2			サブカテゴリー2(2-2)	
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		7/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当	
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当	
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当	
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当	
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当	
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当	

カテゴリー2の講評

職員が守るべき法等を就業規則等に明示し、研修参加により取組み向上に努めています。

職員が守るべき法・規範・倫理等は就業規則や職員のしおりに明示すると共に、保育士倫理綱領、新保育指針は職員全員に配布しています。職員の倫理行動を促進するため、新入職員オリエンテーション、法人内研修、職場内外研修、認可外研修等に外部講師による学習を行っています。また、区が行う新入職員研修、マナー研修、モラル研修にも参加し、職員の取組み向上に努めています。

職員の専門性や保育室の機能を地域活動支援に活用し成果を保護者等へ周知しています。

職員にはスーパーバイザー、レクレーションインストラクター、公立保育園園長経験者がおり、これら職員の専門性や保育室の機能を活用し、地域子育て支援事業「おひさまひろば」を実施し、個別相談にも応じています。また、地域活動グループからの要望に応じて、部屋・楽器・園庭等の貸出しや園長・栄養士等の講師派遣を行い地域活動を支援しています。これら地域活動支援においては、おひさまひろば、手作りおもちゃについて、食について等の資料を適時配布し、活動記録は園だより等に掲載し、保護者や地域等への周知を図っています。

街づくり協議会等地域組織への参加や地域行事を活用し連携成果を上げています。

街づくり協議会、地域懇談会(年3回)、町内会、自治会等の会合には園長又は父母の会役員が出席し、定期的な地域交流を図っています。街づくり協議会との連携では、神社祭礼やサマーキャンプ(姉妹提携町)への指導員派遣、夏まつり・かかし祭り・ハロウィン・フェスティバル・餅つき会等のイベントへの職員派遣を行い地域との連携強化に取り組んでいます。平成24年かかし祭りでは職員・保護者による作品が最優秀大賞を受賞し、また地域懇談会からは変質者情報が提供されるなど地域関係機関との連携成果が上がっています。

3			カテゴリー3	
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用				
サブカテゴリー1(3-1)				
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			8/8	
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし		2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当	
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(〇〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし		2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当	
●あり ○なし		3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当	
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している 評点(〇〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし		2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし		3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当	
カテゴリー3の講評				
<p>保護者の苦情等は保護会個人面談等で把握しタイムリーな対策実施を図っています。</p> <p>保護者の要望・苦情等は玄関に設置した意見箱、利用者アンケート(3月)及び行事アンケートにより収集しています。保護者からの苦情等の相談に対しては、園長・副園長・主任が担当者となり、運営マニュアル(苦情対応)を整備し対応を図っています。また、保護者からの直接的な意見・苦情を収集するため、保護者会(年3回)のクラス別懇談会などでは個人面談を行い、その記録も残しています。</p> <p>保護者意向は行事アンケート等で把握し保育サービス内容の見直しに活かしています。</p> <p>保護者個人面談や利用者アンケート等により収集された保護者意向は、主任リーダー会議、職員会議等で検討し保育サービスの改善に活かしています。特に、保育サービス時間、保育内容の見直し等の要望に対しては、午睡時間に見直し、行事内容の見直し、英語教育の導入、気になる保護者への対応の共有化等に反映させるなど利用者意向を分析し保育サービス向上に活用しています。</p> <p>収集した福祉事業全体動向や地域福祉ニーズ情報に基づき地域貢献に取り組んでいます。</p> <p>福祉全般サービス提供を行っている運営主体の特徴を活かし、保育・子育て以外を含む地域福祉ニーズは運営主体の運営委員会報告書から収集しています。また、町内会・地域懇談会・街づくり協議会等に参加し、地域における保育や子育てニーズを定期的に把握しています。さらに、国や都の保育行政は事業環境については、全社協編「保育の友」等の保育関連雑誌を定期購読し最新情報の収集に努めています。これら収集した地域ニーズ情報等を活用し、ごみ拾い等地域行事や敬老会等のイベント参加により地域貢献に取り組んでいます。</p>				

カテゴリー4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリー1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している 評点(000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している 評点(0000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(0000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ-2(4-2)

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **4/4**

評価項目1
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
◎あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当

カテゴリ4の講評

中期・長期計画に基づき保護者ニーズを反映した単年度活動を行い成果を上げています。
事業主体では理念・ビジョンの実現に向けて中期(3年)・長期(5年)計画を策定しています。単年度活動においては、行事プロジェクトや事業担当を設定し計画的運営を図っています。活動計画を策定するに当たり、利用者ニーズ等を年度末利用者アンケート等で定期的に把握した上で、団会議等により職員全員の意見を反映する工夫をしています。利用者アンケート等のニーズを反映し、年長児英語教育、図書コーナー、談話コーナー「ホットスペース」、イクメンの会(男性保育士+父親)などが創設され活動成果を上げています。

中期・長期計画の実施では保護者協力を得て職員・団会議等で計画的に推進しています。
各年度事業計画、行事計画、プロジェクト計画の推進に当たっては、上半期・下半期及び年間反省と自己評価により達成度を確認する機会が設定されています。これら反省の記録は職員会議や団会議の議事録として残されています。特に地域に向けた事業として、事業主体の運営委員会では、東麻布地区の子育て支援事業「おひさまひろば」を独自予算により実施しています。この事業では、運営主体独自の企画を保護者会等に提案を行い、保護者の理解・協力を得ながら推進を図ってしています。

事故防止マニュアル等が整備され防犯訓練等も定期実施する等危機管理に努めています。
こどもの安心・安全の向上を図るため、防犯・防災訓練、起震車体験、虐待・感染症等の研修を実施しています。特に防災訓練は、消防署と自衛消防隊の連携により毎月1~2回実施(保護者参観日にも実施)し、消化指導や避難指導を受けています。危機管理に対し保育室独自の事故防止マニュアル、感染症予防マニュアル、応急手当マニュアル、虐待防止マニュアル等を整備し定期的に研修を行っています。また、地域災害総合訓練にも参加し、大震災時に備えた備蓄を3日分確保し、焚きだし訓練も実施しています。

5			カテゴリー5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリー1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			8/8	
評価項目1			事業所にとって必要な人材構成にしている	
			評点(000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている		○非該当	
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			職員の質の向上に取り組んでいる	
			評点(00000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている		○非該当	
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している		○非該当	
			サブカテゴリー2(5-2)	
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			7/7	
評価項目1			職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	
			評点(000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを越えた場合の対応方法を明示している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		○非該当	

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
◎あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

保育職員の配置はアンケート、自己評価、園長面接等により適材適所を図っています。

事業主体の就業規則により職員採用方法が明示されています。保育職員の募集・採用方針については保育室運営マニュアルに明示されています。保育職員の採用に当たっては、園長・事業主体事業本部長・エリアマネージャーが面接を行い、実習結果を踏まえて協議し、最終判断は事業主体が行っています。保育室での人員配置は、職員アンケート、自己チェックリスト(保育総合研究会編)による自己評価及び園長面接に基づき、技能熟練度や年齢を加味して行ない、職員の人的環境の整備に努めています。

職員の能力向上は計画的に行われ、実践成果が全国報告される等成果が上がりました。

職員一人ひとりの能力向上ニーズは、ヒヤリング、毎月の振り返り、週報、自己評価等で把握しています。毎年末には、事業本部長・園長が職員面接を行い、各職員の目標や能力向上ニーズを確認し、組織的な人材育成に取り組んでいます。職員の研修計画は一覧表を整備し、各職員が年数回以上は研修参加するよう計画しています。保育の質向上を目指し、職員同士の意見交換により定期的に保育環境の見直しを行い、今年度は保育室の取組実践について全国集会(全幼教及び事業主体全国総大会)で報告する等成果が上がりました。

メンタル面で悩む職員サポート体制が整備され痛みの分る職員育成が図られています。

事業主体の特性として、人事評価の仕組みは無く、年2回の自己評価に基づくヒヤリング等により職員の良さを引き出し、人間関係で躓く職員の弱点をチームで補うことにより痛みの分る職員の育成が図られています。職員が身体・精神的に力量が発揮できるよう健康面のサポート体制が整備され、保育アドバイザーのほか、本部・保育室にはメンタル相談を受ける看護師が配置されています。職員の業務改善ややる気向上のための自主研修会が行なわれ、学んだ成果は現場に活かされています。今年度は福利厚生事業として他県への日帰り親睦旅行が実現しました。

7			カテゴリー7	
7			情報の保護・共有	
			サブカテゴリー1(7-1)	
情報の保護・共有に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			7/7	
評価項目1			評点(000)	
事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している		○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している		○非該当	
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している		○非該当	
評価項目2			評点(0000)	
個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している		○非該当	
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している		○非該当	
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している		○非該当	
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている		○非該当	
カテゴリー7の講評				
<p>保育に関する個人情報保護は区個人情報保護条例等により安全対策を図っています。</p> <p>区個人情報保護条例に基づき本部では安全管理規程・マニュアルを整備し、これらの基づき保育サービスに係わる文書管理・データ管理に関する安全対策を図っています。区の個人情報保護に関する研修を園長、保育主任が毎年受講し、職員会議で研修内容の周知徹底を図っています。</p> <p>個人情報は事務所内の鍵付ラック等に施錠保管して安全管理に努めています。</p> <p>保育現場で収集した個人情報は事務所の鍵付ラックに保管し最終退室者が鍵を閉めています。また、個人情報電子データ(USB等)は鍵付ラック又は金庫に保管し施錠されています。重要な情報を除き、日常業務のために職員が使用する情報は事務所内のファイリングして使用しています。これら個人情報の取扱いは、担当者2名を決め、担当者が個人情報の保管状況を定期的に確認し、更新が必要な場合は更新しています。</p> <p>個人情報に関する職員研修を毎年行い個人情報保護の徹底を図っています。</p> <p>職員に対する個人情報保護に関する研修は定期的に行い個人情報保護の徹底を図っています。また、保護者に対しては、個人情報開示方法等について入園時面接や新年度保護者会で説明しています。ボランティア・実習生・アルバイトの個人情報の取扱いに関する説明は採用時に説明し、誓約書を取って情報セキュリティの徹底を図っています。今後は、事業所が蓄積する情報の取扱いについて、マニュアル等安全管理手順を策定し、情報セキュリティ管理レベルの一層の向上に向けた取り組み改善が望まれます。</p>				

カテゴリー8

8 カテゴリー1～7に関する活動成果

サブカテゴリー1(8-1)

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

職員指導体制を強化し団会議等が活発化したことで行事運営成果が向上しました。
 園長経管者をスーパーバイザーとして配置する等指導体制を強化することで、職員・子ども・保護者・地域への貢献度が高くなりました。また、団会議等で年代別振り返りや評価反省を行い、行事運営の見直し改善や新たな事業(イクメンの会・お茶の会等)の企画が推進されました。その結果、年長児の伝統行事体験、敬老の会のお茶の会で年長児がお茶のお運びをして喜ばれました。また、イクメンの会活動では、地域協力により東京タワー遠足が実現するなど成果が上がりました。

サブカテゴリー2(8-2)

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

職員の自主性・自発性の取り込みにより行事PJ活動の成果向上が見られました。
 職員の自主性や自発性を尊重し、運動会・フェスティバル等行事プロジェクト活動に取組み、行事の成功と共に職員のモチベーションの向上を図りました。その結果、小学校園庭を初めて借用して実施した運動会では問題なく運営できました。また、フェスティバルの発表会では保育士の指導成果が発揮でき取組み成果が向上しました。

サブカテゴリー3(8-3)

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

保護者アンケートに基づく行事等の内容充実が実現し好評を得る等成果が向上しました。
 保護者に対する定期的アンケートや行事アンケート等に基づき、保護者会・個人面談の回数を増やし、新事業としてイクメンの会等を立上げやお茶会等を事業内容や行事内容の充実を図りました。その結果、保育参観時の給食試食や地域子育て事業における離乳食試食の取組みが実現でき好評を得ました。また、イクメンの会月例会の定着、フェスティバル発表会で好評、お茶会の導入等に好評を得る等成果が上がりました。

サブカテゴリ-4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

手作り遊具による節約や緑の節電・エコを意識し取り組みで健全経営が保持出来ています。
事業計画に基づき、遊具等の計画的購入や手作り遊具製作を推進しました。また、紙類は古紙は業者から譲り受け再利用し、緑のカーテンやこまめなスイッチの切替等節電・エコを意識した取り組みを行いました。その結果、原価率の低い水準が維持され、健全経営を保持することができました。

サブカテゴリ-5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している
・カテゴリ-3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

地域行事への積極参加や地域子育て支援事業等の実施により地域貢献が進展しました。
地域の行事に積極的に参加し、職員の参加人数も増え貢献度が向上した。地域子育て支援事業では、区外在住以外の子どもの参加受入れる事により区在職者への支援を試みました。その結果、街づくり協議会主催のかかし祭りでは最優秀賞を取得し、3年連続の受賞となるなど成果が上がりました。また、地域子育て支援事業では、離乳食体験の好評や近隣妊婦が参加する等により地域貢献の成果が上がりました。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している ○非該当
	◎あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している ○非該当
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>園を紹介する独自のパンフレットや子育て支援事業案内を作成しています</p> <p>園を紹介する情報紙として、園として独自のパンフレットを作成し、「園の概要・保育目標・保育理念・地図・保育園の一日・園の行事」等を紹介しています。また、行事や子育て支援事業の案内を別途作成し、地域内の複数の町会や商店街の協力を得て、町会掲示板や喫茶店などで掲出しています。なお、ホームページの作成も進めており、より積極的な情報発信体制を築こうとしています。</p> <p>区として暫定保育室の情報発信の充実に努めることが期待されます</p> <p>公立保育園の基本情報は区で集約し、保育園の利用案内「保育園入園のご案内」を発行しています。また、区立認可園については各園が更新可能なホームページを設置し、園の概要(保育目標・デイリープログラム・子育て支援事業)や活動報告(特集・園だより)を掲載しています。ただし、緊急暫定保育室については、運営法人や施設に応じて提供しているサービスの内容が異なる状況であるのに対し、認可園と同等の基準で運営しているとしながらも同様の情報発信体制は整備されていないため、区が設置主体として状況改善に努めることが期待されます。</p> <p>見学は随時受付し、園長らが応対して利用の不安を取り除くように接しています</p> <p>見学は、原則として前日までの予約により受付すると同時に、当日でも可能な限り受付しています。応対は主として園長・スーパーバイザー・副園長が担っています。見学者に際しては、パンフレットに基づいて丁寧な説明を尽くすとともに、簡単な子育ての相談にも応じ、安心して利用できる施設であることを伝えて不安の軽減を図っています。また、外国籍の方の希望も多く、実際に園舎を案内したり、行事や給食の様子を写真で伝えるよう配慮・工夫をしています。さらに、体験保育の機会として、行事や子育て支援事業への参加を案内しています。</p>	
	サブカテゴリ2	
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している ○非該当
	◎あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている ○非該当
	◎あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している ○非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園前の個別面接および入園のしおりでサービス内容を具体的に説明しています 入園決定者に対しては、利用開始前月中に個別面接および健康診断を実施しています。説明に際しては、「入園のしおり」を用いて担当保育士・栄養士・看護師・園長で役割を分担しながら具体的に基本事項や重要事項の細則を説明しています。なお、現在は個人情報についてのみ同意書を得ていますが、今後は保育の特色に関する説明を充実させながら、説明内容全般に係る同意確認を書面にて得ることが期待されます。</p> <p>利用者の生活リズムに配慮しつつ、慣らし保育期間を設定して受け入れを行っています 入園決定者については、入園面接を通じて作成した面接記録をクラス毎に配布するとともに、「新年度準備プロジェクト会議」を開催して全職員で情報を共有しています。また、子どもの様子や保護者の意向に合わせて「慣らし保育」を実施しています。入園児に対しては、出来る限り個別対応に努めながら、環境面にも配慮しながら希望に応じてタオル・おしゃぶり等の使い慣れた持ち物や冷凍母乳を預かるようにしたり、子どもの持ち物(置き場)には個別のシールマークを貼って自分のものが分かるようにするなど、利用者の精神的な安定を支援しています。</p> <p>退園者には子育て支援事業の利用を案内し、コミュニケーションの継続を図っています 年度の途中で退園や転園をする子どもには、写真や制作帳をプレゼントしています。また、園として継続した支援の必要性が認められる場合には、行事への招待や子育て支援事業の案内に努め、コミュニケーションの継続を図っています。なお、転園先に対する情報提供は子ども家庭支援センター経由しながらケースに応じて行っていますが、今後は、転園先に子どもの状況を伝える仕組み作りが期待されます。</p>		
サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<p>保育方針について、入園のしおりや保護者会を通じて説明しています</p> <p>保育理念・目標・姿勢や年間行事・1日の保育の流れ等について、入園のしおりで概要を紹介しています。また、入園後の保護者会で年間指導計画の要点を説明しています。指導方針は保育過程で示し、クラス単位で年間・期・月・週の各単位で指導計画を具体化し、保護者にはクラスだよりで当月の目標を紹介しています。今後は、保育課程や指導計画を保護者に開示し、保育内容の特色や長期的な展開を示していくことが求められます。併せて、幼児についても積極的に個別計画を作成し、保護者に個別の支援方針を伝えていくことが期待されます。</p> <p>子どもの成長記録は、連絡ノート・保育日誌・指導計画を経て児童票に集約しています</p> <p>子どものエピソードや成長の記録は、個別の連絡帳(0～2歳児クラス)・保育日誌・指導計画の反省欄等に記録するとともに、「経過記録記入の仕方・発達の目安の記入の仕方」等のマニュアルに沿って乳児は毎月・幼児は期を単位として児童票に集約しています。また、心身状況は「保健日誌・健康結果ファイル・健康カード」に記載しています。その上で、保育場面での具体的な個別支援の内容については0歳児クラスでは週案で、1歳児クラス以上では月案で記録し確認しています。</p> <p>職員会議や朝礼会議を開催して、職員間の情報の共有化を図っています</p> <p>子どもに関する職員間の情報共有に向けた仕組みとして、団会議・職員会議・乳幼児打ち合わせ・給食打合せ・離乳食打合せ・アレルギー打ち合わせ等を行っています。また、朝礼会議を毎日行い、職員体制・一日の流れ・子どもの出欠および健康状態・事故やケガの発生状況等を確認しています。さらに、子どもの様子は「朝礼ノート・早番日誌・遅番日誌・幼児ノート・当番引き継ぎ簿」等を用いて職員間で申し送りしています。なお、会議録等は、出席または閲覧状況を確認できるようにし、情報共有の徹底を図っています。</p>		

サブカテゴリ-5

5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
---	--------------------	------------------	-----

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
------------------------------	--	--------

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇〇)
--	--	-----------

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○非該当
◎あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-5の講評

個人情報とは法人規則に沿って管理し、情報提供については保護者の同意を得ています
 個人情報の取り扱い方針は、法人の定めた「協同労働のリスクマネジメント～仕事の基本と情報管理・個人情報」に沿うこととし、園独自に作成した「個人情報保護に関するお知らせとお願い」を保護者に提示して入園時に同意書を得ています。一方、「保育園や子どもがメディア等の取材を受けることについては区の許可を得て対応することとし、顔は映さないように配慮しています。」

子どもの人権やプライバシーの保護を徹底し、処遇や環境設定の適正化に努めています
 子どもの人権やプライバシーの保護を目的とする取り組みや配慮事項は「運営マニュアル」に示し、保育実践に際しては「名前を呼び捨てにしない、頭ごなしに話をしない」など当たり前なことを大事にして徹底しています。また、排泄環境について0歳児から配慮しておむつ交換台前にカーテンをつけたり、1歳児・延長・早朝用のトイレ前に仕切り戸を後付けで設置しています。さらに、プール遊びに際して外部からの視線を遮るように配慮し、子どもの羞恥心や防犯を意識しています。保護者対応も同様に、個別のニーズや価値観を柔軟に受け止めています。

子ども家庭支援センターと連携して、虐待の防止と発見に取り組んでいます
 虐待に関する取り組みは、法人の運営マニュアルおよび区の児童虐待対応マニュアルを行動基準とし、虐待発見のポイントや発見時の対応手順を確認しています。また、職員は園内研修に加えて虐待をテーマとした「認可外保育施設職員テーマ別研修」に参加するなどし、理解を深めています。事例があった場合は、区の子ども家庭支援センターが中心となって構成する関係者連携会議に参加しています。一方、虐待の防止に向けた取り組みでは、地域や保護者への理解促進に向けて「虐待防止月間」のポスターを掲示するなど、推進協力を図っています。

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

11/11

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(00000)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

サブカテゴリ6の講評

法人独自のマニュアルを整備し、個人配布しながら活用の徹底を図っています

法人・職員・保護者参加のもとで「運営マニュアル」を作成し、事務室において自由に閲覧できる環境で管理するとともに、「離乳食・感染症・衛生・事故防止」等のリスクマネジメントに係るマニュアルを個別配布しています。職員に対しては、必要に応じてマニュアルで確認して独断で行動しないよう学びを優先させ、職員間で統一的に業務に取り組んでいます。また、マニュアルに応じた各種チェック表を活用し、業務の履行が適切に行われる仕組みとしています。なお、マニュアルの見直しは、職員会議やリーダー会議等で適宜行うこととしています。

子どもの安全に配慮した研修の実施やマニュアルの整備に取り組んでいます

子どもの安全を守る視点から、「危機管理マニュアル」をまとめるとともに、避難訓練や不審者侵入想定訓練を実施しています。また、法人危機管理対策室より講師派遣を受けて園内研修を実施し、全職員で事故防止対策の学習に取り組んでいます。一方、事故・怪我が発生した場合は、事故報告書を作成するとともに、毎日の朝礼でクラス単位のヒヤリハットについて報告し、朝礼ノートに記録しています。今後は、職員全員が上級救命講習を受講するなど、目に見える形で危機に備えていることをアピールすることが期待されます。

法人研修や外部研修に加え、保育現場のニーズに沿って園内研修に取り組んでいます

人材育成は、法人研修および外部研修による職種・職層別のキャリア育成に努めると同時に、保育現場のニーズに沿って「手作りおもちゃ・わらべ歌・リズム遊び・絵本・園内環境づくり」等のテーマで園内研修に取り組んでいます。また、新規採用者には独自に作成した「職員のしおり」を用いて業務の全体像を説明しています。さらに、事務室に「ほうれんそう」の用紙を掲示し、職員がわからないことがあった場合は副園長や主任にすぐに相談するよう促しています。今後は、人事評価の基準を明示し、個別の研修計画・履歴を作成することが期待されます。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		37/37	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
評価項目1の講評			
<p>保育環境は各クラスで工夫し、生活や遊びに応じたスペースを設けています</p> <p>子どもの成長を評価する視点や基準は保育課程や指導計画によって示し、子どもの主体性を尊重する姿勢は「運営マニュアル」に示しています。その上で、保育室には、「食事・午睡」等の生活や「絵本・ままごと・制作・机上あそび」等の遊びに応じたコーナーを設定しています。なお、同施設は小学校施設を引き継いで活用しており、保育に適した仕様となるよう様々に配慮した取り組みが見られます。今後は、そのような独自環境における保育実践の評価と反省について特に意識して記録し、独自の環境マニュアルとしてまとめることが期待されます。</p> <p>行事や散歩で異年齢交流を実施し、英語を用いた活動で異文化交流を図っています</p> <p>乳児クラスでは、年齢別の保育(発達に応じて2グループ化)に重点を置きながら、早朝・延長・土曜保育等の場面で異年齢保育の機会を持っています。また、幼児クラスでは、「お店屋さんごっこ」や「フェスティバル」などの行事や散歩の場面で意図的な異年齢交流の機会としています。さらに、他園と合同で凧揚げを楽しむ機会を設けています。一方、異文化交流の機会として、幼児クラスでは職員が英語でコミュニケーションをとる「英語で遊ぼう」を月2回実施し、子どもは自己紹介や歌などを英語で行っています。</p> <p>専門性を確保した上で特別な支援を要する子どもを受け入れ、統合保育を実施しています</p> <p>統合保育を実践し、区の規定に沿って特別な支援を要する子どもを受け入れています。特別な支援が必要な子どもの保育に際して、障害児研修やケース会議を通じて職員の理解を深めるとともに、個別の状況に応じて子ども1人に対して職員1人の割合で職員を加配し、保育体制を手厚くしています。また、区の障害福祉センターや子ども家庭支援センター等の専門施設とも連携し、カウンセリング相談を受けながら専門性を確保できるようにしています。</p>			
2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
◎あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている		○非該当
◎あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
◎あり ○なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当

評価項目2の講評

日常的には連絡帳やクラスだよりによって保護者への情報提供に取り組んでいます

保護者とは、日常的には登降園時のコミュニケーションや「連絡帳(乳児クラス)」を通じて子どもの情報共有に努めています。活動風景はの紹介は、クラスだよりの発行や保護者会の説明において写真を活用するなど工夫をしています。ただし、3～5歳児クラスでは連絡帳に変えて「連絡ノート(出席カード)」を活用し、連絡事項は適宜メモ欄を活用する程度となっています。今後は、5歳児クラスで見られる壁新聞の作成を他クラスでも標準的な取り組みにするとともに、幼児クラスにおいて個別の情報伝達の仕組みをより充実させることが期待されます。

発達過程や指導計画に沿って生活習慣を身につけるための支援を行っています

食事・排せつなどの基本的な生活習慣を身につけるための支援について、保育指針に掲げられた発達過程を目安として、年間指導計画や食育計画表に沿って指導にあたっています。その際、クラス会議や職員会議で保育感のすり合わせに努めることを重視しています。併せて、個別の発達の記録は児童票の経過記録に記載しています。ただし、確認された資料は支援の時期や手法などを明示するものではないため、今後は支援の具体的な手法を示して職員の取り組みの標準化に努めるとともに、その内容を保護者にも伝えていくことが期待されます。

午睡は子ども個別の体調や環境変化等の状況に合わせて実施しています

子どもの休息は、個別状況への配慮を優先させつつ、午睡時間の基本設定は年齢に応じて12時から13時までに入眠し、14時30分までに起床するようにしています。なお、0～2歳児までは連絡帳に睡眠時間を記録しています。また、5歳児クラスでは就学支援の一環として、12月以降は午睡を取らない生活を経験するようにしています。一方、眠りに就けない子どもがいた場合は、クラス内の目が届く場所で過ごせる環境を用意し、個別に対応しています。今後は、午睡や生活リズムに関する考え方を具体化し、保護者にも伝えることが期待されます。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当

評価項目3の講評

保育目標の達成に向けて、園全体で考え方を共有しながら子どもの育ちを支援しています

園の保育目標を「健康で丈夫な子(子どもの1日の生活リズムを整え、大切な食の配慮によって体も心も健やかに成長させます)／意欲を持って頑張る子(年齢や個々の成長に応じた生活習慣を身につけ、興味や好奇心を育て、子どもが自分から進んで物事に取り組む環境づくりをします)／思いやりのある子(友達と一緒に遊ぶ喜びを知り、仲良く過ごす心を育てます)」としています。このような視点において保育課程および指導計画を立て、園全体で考え方を共有しながら子どもの育ちを支援しています。

保育過程に掲げられた視点に沿って、計画的にプログラムを設定しています

同園の特徴的な保育活動として、幼児クラスで子ども同士の関係が希薄な状況を課題として捉えたため、意図的に手をつなぐ遊びを取り入れた結果として、わらべ歌遊びを積極的に行っています。その際、外部講師(元保育士)2名が月1回来園し、子どもと一緒に遊んでいます。また、再現遊びとしてそのまま遊びを支援するとともに、環境に個性を育む手作りおもちゃ(布製の感触の良いもの・構成が出来るもの・指先の発達を促すもの等)やメッセージ性のある絵本、知育ブロック、図鑑などを揃えています。

グラウンドでのびのびとした遊びを展開し、公園で自然に触れる体験を楽しんでいます

同園の園庭はわずかなスペースしかありませんが、それを補うように教育委員会の管理するグラウンドや体育館を使用できるようになっており、身体を使った遊びを展開できる環境を確保しています。グラウンドには砂場や畑も設置し、活動の多様性を保障しています。また、東京タワーからほど近い都心に位置していますが、周辺には自然環境に恵まれた公園があり、散歩に出かけて風・木漏れ陽・落ち葉など自然に触れる心地よさを感じられるよう支援しています。さらに、遠足では東京タワーの外階段を上るなど、環境を活かして子どもの体力を育てています。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目4の講評

行事は計画的に開催し、文化や子どもの成長に沿った様々な体験の機会としています

主な行事として「入園式・子どもの日を祝う会・親子遠足・七夕まつり・お店屋さんごっこ・平和の話を聞く会・親子クッキング・運動会・フェスティバル・お楽しみ会・餅つき&バザー・節分・ひな祭り・卒園式・お別れ会」等を行い、様々な体験の機会としています。また、誕生会を幼児クラスは月例で、乳児クラスは個別に開催し、誕生児には誕生カードやケーキを用意しています。なお、保護者参加の行事として「親子遠足・親子クッキング・運動会・フェスティバル・餅つき&バザー・卒園式」を設定し、主に土曜日に開催しています。

利用者意向や法人理念を反映させながら、行事の企画立案に取り組んでいます

行事に関する保護者意向は、行事アンケートにより把握に努めるとともに、「フェスティバル」や「餅つき会&バザー」の開催に際しては企画段階から保護者の参画を促しています。その上で、年間行事計画の立案を組織的に行い、「今年度行った行事・取り組み」「親からの要望で行った取り組み」「親からの要望で行いたい取り組み」「職員が行いたい取り組み」の項目別に整理して法人および園の理念に通じる「3つの協同」(働く仲間どうしの協同/利用者との協同/広く地域社会との協同)に沿って次年度の取り組みを検討しています。

実習生やボランティア、高齢者、地域等との交流の機会を積極的に設けています

子どもが職員以外の人に接する機会として、大学の実習生や高校の体験学習、ボランティアで訪れた学生・生徒を受け入れています。また、5歳児クラスでは就学支援として小学校体験見学会で小学生と交流しています。さらに、「平和の話を聞く会」では地域のお年寄りの話を聞く機会を、「おじいちゃん・おばあちゃんと遊ぼう会」では、在園児祖父母を招いて伝承遊びや給食バイキングを楽しむ機会を設けています。一方、ハロウィンに際して地域に出かけたり、地域の祭りに作品を出展して賞を獲得するなど、地域との交流も深めています。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるよう配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
◎あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当

評価項目5の講評

保育室にコーナーを設定するとともに、可能な限りクラス保育を継続しています

保育室内は、生活の安定に向けて食事・午睡・遊びに応じたコーナー設定を施しています。また、人的体制の配慮として、長時間保育の子ども達が安定して過ごせるよう、0歳児クラスでは担任が延長時まで対応しています。その他のクラスでも可能な限りクラス保育を基本とし、延長時の合同保育に際しては、乳児と幼児で生活スペースを分けるなど、人数や状況に応じてきめ細かく対応しています。一方、合同保育時の配慮事項や子どもがくつろぐという視点からの環境設定については、今後コンセプトや実践記録を明示していくことが期待されます。

降園時にも可能な限り担任が対応しつつ、連絡帳と併せて子どもの情報を伝えています

保護者との情報共有に向けて、個別面談・保育参加・保育参観・保護者会を実施するとともに、園だより・クラスだよりの発行や連絡帳(幼児は連絡ノート)を活用しています。また、クラス別の保護者会において写真や動画を活用して説明するなど、保護者ニーズに沿って工夫しています。なお、0歳児クラスでは延長保育時にも担任が対応しており、保護者も担任から情報伝達を受けられるようになっています。そのため、本利用者調査における保護者とのコミュニケーションに関する項目において、非常に高い満足度(問7・問8とも96%)となっています。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
◎あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○非該当

評価項目6の講評

献立は園独自に作成し、契約農家から仕入れた安全な食材で調理しています

献立は園独自に作成し、日別メニューで提供しています。栄養士が巡回して喫食状況を直接確認しながら、調理方法を工夫しています。食材は、米は山形、果物は愛媛、人参は新潟など、契約農家から安全な食材を仕入れ、保護者にも子どもにも提供する前にホットスペースで試食を提供しています。食事環境については、食器は瀬戸物を使用し、食具・テーブル・イス等は木製で子どもの成長に合わせたものを使用しています。なお、保護者には給食の内容は献立表・給食だよりの提供・給食展示、保育参加で給食の試食を提供しながら紹介しています。

献立の工夫や食育活動を通じて、「食」に対する関心や知識を深めています

楽しく食事をする工夫として、行事食を設定したり、誕生会に合わせてバイキング食や誕生ケーキを提供しています。また、食育活動は「年間給食実施計画(給食指導・献立の配慮・行事食・家庭との連携)」および「年鑑食育計画(菜園・調理・マナー)」に基づいて食事マナーや三色食品群による栄養バランスを学んだり、「トマト・キュウリ・ナス・米」等の栽培・育成を体験しています。さらに、給食の下準備の手伝いや夏野菜カレー・月見団子・クッキー・栽培した米を使ったおにぎり作りなど、親子参加の機会も含めて調理保育を行っています。

アレルギー児や乳児への対応は、安全確認や個別配慮を徹底しています

アレルギー児への配慮や対応に関する事項は、「運営マニュアル」に則しています。個々の食事の調整は、食品除去の情報提供に基づき代替食で対応し、「個人専用トレイ・アレルギー内容を記したカード」等を活用しながら、複数の職員で多重確認を行い細心の注意を払って誤食防止に努めています。宗教上の配慮も同様に行っています。一方、乳児への対応は、子どもの状況や成長を連絡帳や離乳食進行表などで確認しつつ、個別の体調に合わせて調理方法を調整しています。なお、「入園祝い会」で0歳児保護者を対象に離乳食の試食を提供しています。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○非該当
◎あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子ども自身が安全や健康管理を意識できるよう教育の機会を設けています</p> <p>子どもの安全意識を高める取り組みとして、毎月避難訓練を行うとともに、総合訓練では併設の適応指導教室や地域協議会と合同で実施しています。その際、消防の協力により、腹話術人形を活用したお話しや起震車体験など関心を深める機会も設けています。また、警察の協力を得て交通安全教室や防犯教室を実施しています。一方、子ども自身の健康について手洗い・うがいや歯みがきの指導を行い、日頃から習慣としています。さらに、室内の階段やドア付近などに子ども向けに事故・ケガ防止の注意を促す取り組みを行っています。</p> <p>看護師を中心に医療ケア体制を築き、医療機関と連携した支援を行っています</p> <p>園内の医療的ケアは、園医との協力体制を築きながら、看護師を中心とした体制を整えて対応しています。また、保健行事として「定期健康診断・身体測定・歯科検診・視力検査・尿検査・ぎょう虫検査」等を実施しています。与薬は、「心疾患・腎疾患・アレルギー・けいれん性疾患・中耳炎」等に対処する場合のみ「内服薬・外用薬連絡票」に基づいて薬を預かり、看護師が管理・対応しています。</p> <p>保健業務マニュアル等に則してSIDS及び感染症対策に取り組んでいます</p> <p>子どもの健康管理は、「保健業務マニュアル」「感染予防マニュアル」等に則して取り組んでいます。SIDS対策として午睡時の観察は「午睡チェック表」を用いて15分毎に行い、体位や呼吸を確認しています。また、感染症予防に向けて、園児・職員ともうがい・手洗いを励行するとともに、消毒液やペーパータオル、空間除菌機能付き加湿空気清浄機を設置しています。一方、保護者には入園時に入園のしおりにより説明するとともに、保健だよりを毎月発行する他、掲示板等で感染症の発生などサーベイランス情報を発信しています。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
◎あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
◎あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

父母会活動の支援や保護者会での懇談を通じて、保護者同士の交流を促進しています

保護者との信頼関係を築く取り組みとして、父母の会の役員会開催時に子どもを預かり、簡単な食事を提供するなど活動を支援しています。また、保護者を迎える環境として、夕方にはエントランスに保護者が自由に使えるお「ホットスペース」を常設し、お茶やコーヒーなどを提供して一息つけるように配慮しています。一方、保護者間の交流促進に向けて、保護者会において懇談や意見・情報交換の時間を設けるとともに、参加者同士の交流が自然に育まれるようにしています。なお、父母の会は衣類等交換やクラス毎の交流を行うなど、盛んに活動しています。

保護者会等において、子どもの発達や育児などについて情報提供しています

保護者との情報や理解の共有に向けて、個別面談・保育参加・保育参観・保護者会を実施するとともに、園だより・クラスだよりの発行や連絡帳(幼児は連絡ノート)を活用しています。また、「子どもの発達や育児などについての懇談会や勉強会」は、保護者会がその機能を担っており、各クラスで子どもの発達の見通しを説明しています。また、保護者クッキングや有名作家を招いた絵本の読み聞かせ会を開催したり、5歳児保護者の就学準備に向けて、元学校長などに具体的な心得などを話してもらう機会を設けています。

運営委員会や利用者アンケートを通じて利用者意向の把握および反映に努めています

保護者の意向を把握し、事業に反映させる仕組みとして、保育参観や行事に際してアンケートを実施したり、「フェスティバル」や「餅つき会&バザー」の開催に際しては企画段階から保護者の参画を促しています。また、保育全般については、意見箱を設置して意見を受け付ける姿勢を示すほか、当年度は第三者評価における利用者調査を実施して意向の把握に努めています。さらに、法人関係者に保護者代表・地域の方々・主治医等を加えた15名からなる運営委員会を組織し、年3回の会議を通じて運営内容を確認しています。

9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○非該当
◎あり ○なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○非該当

評価項目9の講評

地域の子育て支援の拠点として、ワークショップや保育園体験の機会を設けています

同園は区が独自に設置する「緊急暫定保育室」であり、子育て支援事業の実施は目的外の取り組みですが、法人理念に沿って、地域支援事業担当者を配置しながら積極的な地域貢献に取り組んでいます。子育て支援事業「おひさまひろば」では、月1回の頻度で「手作りおもちゃ・わらべ歌遊び・七夕飾り」等のワークショップや「園庭開放・体験保育・給食試食会・園舎見学ツアー」等の保育園体験、行事「フェスティバル・餅つき大会」への招待を実施しています。出席カードを活用してリピーターの獲得に努め、妊婦や地域外世帯のニーズも受け止めています。

公益性の高いイベントやサービスの案内を自由に持ち帰ることができるようにしています

区内における子育て支援事業の情報は区(支庁)で集約し、「子育て便利帳」や「父母のための安全安心ブック」を発行しています。また、同園ではが子育て支援の拠点として、公益性の高いイベントやサービスの案内を玄関などで自由に持ち帰ることができるようにしています。今後は、専門機関として有する地域内の感染症流行情報やベビー用品のリコール情報等についても、地域向けに情報発信することが期待されます。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-2	職員のやる気向上に取り組んでいる
タイトル①	職員のメンタル面の健康サポート体制が充実し痛みの分る職員の育成が図られています	
内容①	事業主体の特性として、人事評価の仕組みは無く、年2回の自己評価に基づくヒアリング等により職員の良さを引き出し、人間関係で躓く職員の弱点をチームで補うことにより痛みの分る職員の育成が図られています。職員が身体・精神的に力量が発揮できるよう健康面のサポート体制が整備され、保育アドバイザーのほか、本部・保育室にはメンタル相談を受ける看護師が配置されています。職員の業務改善ややる気向上のための自主研修会が行なわれ、学んだ成果は現場に活かされています。今年度は福利厚生事業として他県への日帰り親睦旅行が実現しました。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている
タイトル②	しなやかな子どもたちの保育環境を活かした保育に取り組んでいます	
内容②	13か国の国際色豊かな子どもたちや保護者のかもし出すそれぞれの文化を日常的に自然な関わりのなかでしなやかに受け入れている事は保育室の特徴です。2歳児の散歩時に見聞きする動物や風景等、日本語のあとに数か国語で単語や言葉が交わされる光景など、ほほえましい文化交流が日常の保育で見られたり、外国人の保護者の方によるボランティアの「英語で遊ぼう」の活動が年間を通して実施され、その様子をフェスティバルで発表し、好評を得ました。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域のニーズに即した子育て支援を実施している
タイトル③	地域の子育て支援施設としての機能を活かした活動への取り組みをしています	
内容③	地域の子育て支援の拠点としての機能を持つ保育室の特徴を活かして、保育室の子どもだけでなく、地域の子ども、在宅子育て中の母親の支援にも力を注いでいます。地域のコミュニケーションネットワークを使って、保育室の役割をアピールし、ポスター掲示などの協力を得て実施しています。特に、これから妊娠・出産を迎える方々にも安心して子育てに臨む楽しみを与える機会を作っています。その一つとしての離乳食試食会には複数の妊婦の方の参加があり大変喜ばれました。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	人の痛みや弱みを分る職員を採用し、自己評価に基づくヒアリング等により職員の良さを組織的に引き出しています。
	内容	事業主体の特性として、人事評価の仕組みは無く、年2回の自己評価に基づくヒアリング等により職員の良さを引き出し、人間関係で置く職員の弱点をチームで補うことにより痛みの分る職員の育成が図られています。職員が身体・精神的に力量が発揮できるよう健康面のサポート体制が整備され、保育アドバイザーのほか、本部・保育室にはメンタル相談を受ける看護師が配置されています。職員の業務改善ややるき向上のための自主研修会が行なわれ、学んだ成果は現場に活かされています。今年度は福利厚生制度として他県への日帰り親睦旅行が実現しました。
2	タイトル	外部講師を招きながら意図的かつ特徴的なプログラムによる子どもの成長を支援しています
	内容	同園の特徴的な保育活動として、幼児クラスで子ども同士の関係が希薄な状況を課題として捉えたため、意図的に手をつなぐ遊びを取り入れた結果として、わらべ歌遊びを積極的に行っています。その際、外部講師(元保育士)2名が月1回来園し、子どもと一緒に遊んでいます。また、再現遊びとしてそのまま遊びを支援するとともに、環境に個性を育む手作りおもちゃ(布製の感触の良いもの・構成が出来るもの・指先の発達を促すもの等)やメッセージ性のある絵本、知育ブロック、図鑑などを揃えています。
3	タイトル	利用者アンケートの実施や運営委員会の設置により、利用者ニーズに則した園運営に努めています
	内容	保護者を迎える環境として、夕方にはエントランスに保護者が自由に使えるお「ホットスペース」を常設し、お茶やコーヒーなどを提供して一息つけるように配慮しています。また、保護者の意向を把握し、事業に反映させる仕組みとして、保育参観や行事に際してアンケートを実施したり、「フェスティバル」や「餅つき会&バザー」等の行事では企画段階から保護者の参画を促しています。さらに、法人関係者に保護者代表・地域の方々・主治医等を加えた15名からなる運営委員会を組織し、年3回の会議を通じて運営内容を確認しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	情報セキュリティ管理レベルの一層の向上に向けた取り組み、改善が望まれます
	内容	職員に対する個人情報保護に関する研修は定期的に行い個人情報保護の徹底を図っています。また、保護者に対しては、個人情報開示方法等について入園時面接や新年度保護者会で説明しています。ボランティア・実習生・アルバイトの個人情報の取扱いに関する説明は採用時に説明し、誓約書を取って情報セキュリティの徹底を図っています。今後は、事務所が蓄積する情報の取扱いについて、マニュアル等安全管理手順を策定し、情報セキュリティ管理レベルの一層の向上に向けた取り組み、改善が望まれます。
2	タイトル	保育課程や指導計画を開示し、保育内容の特色や長期的な展開を示していくことが求められます
	内容	保育理念・目標・姿勢や年間行事・1日の保育の流れ等について、入園のしおりで概要を紹介しています。また、入園後の保護者会で年間指導計画の要点を説明しています。指導方針は保育過程で示し、クラス単位で年間・期・月・週の各単位で指導計画を具体化し、保護者にはクラス日より当月の目標を紹介しています。今後は、保育課程や指導計画を保護者に開示し、保育内容の特色や長期的な展開を示していくことが求められます。併せて、幼児についても積極的に個別計画を作成し、保護者に個別の支援方針を伝えていくことが期待されます。
3	タイトル	基本的な生活習慣を身につけるための支援の方法について、標準化を図ることが期待されます
	内容	食事・排せつなどの基本的な生活習慣を身につけるための支援について、保育指針に掲げられた発達過程を目安として、年間指導計画や食育計画表に沿って指導にあたっています。その際、クラス会議や職員会議で保育感のすり合わせに努めることを重視しています。併せて、個別の発達の記録は児童票の経過記録に記載しています。ただし、確認された資料は支援の時期や手法などを明示するものではないため、今後は支援の具体的な手法を示して職員の取り組みの標準化に努めるとともに、その内容を保護者にも伝えていくことが期待されます。